

総括に対するコメント

要約

1. フランス式トレーニングの評価と継続

- フランス式トレーニングの評価について、しっかりと指針を出してもらいたい。
- フランス式トレーニングの全国的な統一を目指し、ある程度統一できたことは評価できる。
- フランス式トレーニングにおいてはフルタイムのコーチングがあり、比較的長時間であれば効果的。
- フランス式トレーニングは競技に専念できる特別な環境にある選手が長期間取り組むことで成果を発揮。
- フランス式トレーニングの継続については見直しがなされていたのではないか。
- フランス式トレーニングの理解度が不足しているようにも記載があることから継続すべきではと考える。
- フランス式トレーニングの採用や実践について、普及だけでなく各団体の指導者の理解を深める場が必要。

2. 強化方法と改善点

- 強化の具体的な改善点、強化方法案があると分かりやすい。
- 強豪国の分析やその導入の検討を詳細に示しては。
- 強化スタッフの充実が必要。
- 強化は結果責任であり、オリンピックごとに責任を取ってヘッドコーチが辞めるのが当然。
- 強化戦略計画については、しっかりと熟読したわけではなく、さらっと目を通したくらいです。

3. 選手育成と発掘

- タレント発掘の専門のスカウトを雇うことは出来ないか。
- 高校生まで他競技でしっかりとトレーニングしてきたアスリートの種目転向の道を拓くことを提案。
- 大学から競技を始めた選手がオリンピックに出られたことを積極的にアピールし、選手発掘につなげる。
- タレント発掘事業の見直しが必要。

4. 指導者育成と体制強化

- 指導者育成について形式的すぎる育成でライセンス縛りすると、有能な指導者も締め出してしまう。
- 指導者の育成、ボート競技の認知度向上、JARA の体制強化、競技人口の増加対策等の継続実施。

- コーチが変われば必ず結果は変わる。

5. 国内外の競技力向上

- 国内の軽量級種目をやめてオープン種目のみとした方が良い。
- 国内のトップクラスの指導者、競技者の意見も取り入れて、関係者の納得感のある計画策定を希望。
- 国内の強化拠点への投資を考えていただきたい。
- 海外の強化拠点に関しては、ワールドカップなどの主要大会がヨーロッパを中心に開催されている現状を踏まえると、エギューベレットを拠点とした活動は合理的。

6. 組織運営とマーケティング

- JARA の資金源が乏しいことで、出来ないことが多いなら、マーケティングや経営のプロを経験者外から雇い入れ、日本代表選手にとって必要な強化事業を前向きに参加できる土台作りをしてもらいたい。
- 国内のトップクラスの指導者、競技者の意見も取り入れて、関係者の納得感のある計画策定を希望。

7. その他の提案

- 日本代表選手のフィードバックを知ることができてとても興味深かった。
- 選手・スタッフともに成績が残せなかった言い訳ではなく、「どうしたら勝てるのか」「何が足りていないのか」など話し合う場が作られることを期待。
- 国内トップ選手のフィジカルデータ、テクニックデータの現状把握不足。

日本代表に期待すること

要約

1. メディアと普及活動

- 世界大会での活躍を、SNS などのメディアを通してもっと見たいです。
- 日本代表の普及活動の貢献は、ローイング競技自体情報量が少ない。YouTube などを通してでも構わないが、情報量の少ないトップの情報を世界の情報含めて発信してほしい。
- SNS の積極的な利用、メディアの露出を通して多くの方にローイングの素晴らしさを知ってほしいです。
- ローイングをメジャーなスポーツにするにはやはり、選手の活躍でマスコミに取り上げられるのが、一番だと思います。
- メディア出演することで競技を身近に感じてもらえることで、競技裾野を広げ、競技人口の底上げにつながるのでは？
- SNS を駆使して関係者が情報発信をし続けることです。
- 協会として認知度を上げるアクションをもっとして欲しい、メディア露出が極めて少ないと思います。

2. 競技力向上と成績

- 昨今、日本の強化に関してはなかなか成績が向上していないのも事実である。
- 競技大会は上位進出してほしいです。
- 改めて日本選手が世界でなぜ通用しないのか、選手・スタッフともに考察する必要がある。
- 結果は後からついてくる。それまでのプロセスと努力・目標が必要。
- 知名度の向上に最も必要なことは、競技成績を残すことです。メディアやイベント等はその後のことだと思います。
- 競技力向上が最優先であることは大前提。
- 国内の競技環境を整備するとともにオリンピックでのメダル獲得が競技人口の増加、競技普及に直接結びつくと思われるので代表選手又は候補選手は地道な競技力向上に努めてほしい。

3. 選手育成と発掘

- 荒川選手のごとく、世界を目指す選手の育成が必要です。自己研鑽できる人を選手選考の際重要視して頂きたい。
- パラ選手の発掘は、全国の特別支援学校や自衛隊や消防の身体欠損、ボクサーの網膜剥離による失明など、運動能力が高いが不慮の事故で障害を抱えた人を調査すれば多数いると思う。
- 選手はいるので、各県におけるサポート体制の強化が必要。

- トップ選手の経験を次世代の育成につなげてほしい。
- 選手の皆さん、たくさんの大会に出場。大会会場で会う選手たちはとても素敵。メディア取材に出てくださいね。YouTube 配信してくださいね。イベントや体験でお会いするととても応援したくなるはず。

4. 組織運営とマーケティング

- ローイングがマイナー種目から脱皮できる方策を考えて欲しい。
- ローイングの名称の周知。
- ローイング競技の周知と競技者の増加。
- ローイングが一般にもっと認知され、競技人口が増えることを期待しています。
- ローイングの知名度向上に、JARA は何かしているのか？活動しているのなら残念ながら元競技者の保護者であっても、何も伝わっていない。
- ローイングと言ったら、競技をわかってもらえる認知度が欲しい。

5. 国際大会での活躍

- 今後の日本ローイング界のためにも、エイトの派遣をぜひ叶えてほしい。
- 先ずは世界選手権など最高レベルの大会でメダルを取り、マスコミに大きく報道される必要がある。
- オリンピック等の国際大会に派遣するからには、メダル獲得が目標であるべき。
- 国際大会での活躍と指導者の養成、環境の整備がスポーツ界での地位向上につながる。
- オリンピックなどの国際大会の活躍が、競技の知名度向上、競技人口の増につながり、競技力の向上にもなると思うので、メダル獲得など期待しています。

6. その他の提案

- 特に学生競技者への心持ちやテクニックの普及活動の一助になる活動を期待します。
- ジュニア世代が 1000m のレースしかしてないので、世界との格差は縮まらないのでは？
- 海外選手を日本人として帰化して行く方向を考えて行く。
- 一部の某実業団選手がコースを我が物顔で漕ぎ、暴言を吐く等、マナーが悪く、自身が指導している小学生が怖がる等、非常によろしくない印象を与えている。
- 設問とは関係ありませんが最近強化費の支援要請がないようですが、要請がないとなかなか自主的にとはなりません。

その他、ご意見(自由記述)

要約

1. ジュニア世代の育成と普及

- サッカーやラグビー協会をモデルに、ジュニアへの普及にあたり、組織化が必要。
- 中学校における部活動の地域展開について、ノウハウや資金面でサポートが必要。
- ジュニア世代の2000mレース化が必須。
- ジュニアカテゴリーの若い人にローイングの良さを実感して欲しい。
- ジュニア層が競技に関われる環境を整備。
- ジュニアカテゴリーの強化が大切。
- 高校でボートを経験している選手の継続率を上げるため、大学でもボートを続ける魅力を伝える。
- ジュニアからシニアに至るトップレベルの選手を合理的に一貫した理論と方法で育成。
- ジュニアカテゴリーからシニアカテゴリーへの接続がうまくいっていない点に課題。

2. 選手育成と強化

- 選手側もスタッフ側も集中して取り組める仕組みや環境が必要。
- U19 日本代表で戦った選手が大会後に競技を退いた。
- 安定した資金の確保し、選手の負担額を軽減して欲しい。
- 選考会の頻度が多く、地方の選手は負担が大きい。
- 日本代表選手が尊敬できるヘッドコーチを招聘して欲しい。
- 選手ではなく、指導者の選考方法が問題。
- 選手の育成も必須事項だが、指導者養成も必要。
- トップ競技者から組織指導者を出すこと。
- 選手が選考されるように、コーチも強化戦略のプレゼンテーションをして選出される仕組み。
- 選手が競技に専念できる環境を整備することは重要。
- 選手の育成強化に結びつく環境を整備。
- 選手の育成と強化の体制が分断されている印象。
- 選手のモチベーション向上も含め最新の科学的知見をふまえて合理的に一貫した理論と方法で育成。
- 選手が成長する力を信じたい。
- 選手の育成と強化の体制が分断されている印象。

3. 組織運営とマーケティング

- 持続可能なスポーツの運営の面で考えると、選手だけでなく役員の次世代の育成も課題。
- 役員の交代を行ってほしい。

- JARA の強化方針や代表活動の内容をメダル獲得に重点を置いたものに見直すべき。
- 地方で活動する立場から、競技人口の減少・施設の老朽化や指導者の不足による活動継続性の危機。
- 地域に根付いたローイングコミュニティにもう少し関心を持って貰えたら。
- 地方のローイング協会は多忙な学校の先生がメインとなり、役員は高齢化が進んでいる。
- JARA の活動の収益性を上げることで、アスリートの金銭的負担を軽減して欲しい。
- ローイングの知名度向上はこれからのローイング業界の成長や飛躍に不可欠。

4. 国際大会での活躍

- 日本代表選手が尊敬できるヘッドコーチを招聘して欲しい。

5. その他の提案

- メダルを取ったら将来を補償するくらいの制度を考えて欲しい。
- 知名度向上に向けた情報発信。
- 選考会の頻度が多く、地方の選手は負担が大きい。
- 日本代表選手が尊敬できるヘッドコーチを招聘して欲しい。